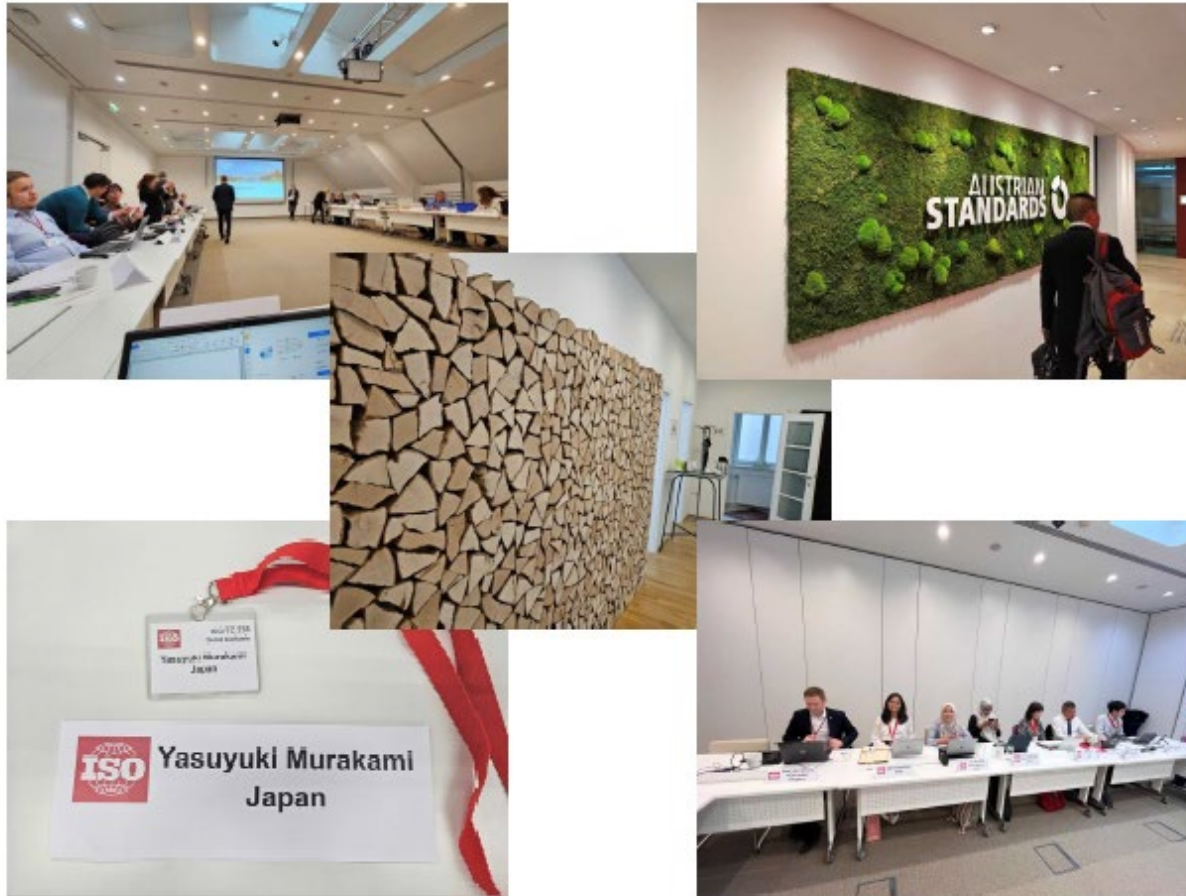


TC 238 2024年ウイーン年次総会

2023年5月13-17日、総会の会場はAustrian Standards Institute (ウイーン)

日本からは固体バイオ燃料標準化協議会よりPメンバーとして参加。



TC 238 2024年ウィーン年次総会

各日程と内容

| 日程 | 5/13(月) | 5/14(火) | 5/15(水) | 5/16(木) | 5/17(金) |
|----|-----------|---------|---------------------|----------------|-----------------|
| AM | CGCミーティング | TG1 | WG2 | WG4 | TC238 ミーティング |
| PM | WG5 | WG2 | WG6 | | |
| | | ウィーン観光 | 見学会 発電所およびFtプラント | ディナー ミーティング | |

CGCミーティング:議長会議(各WGの議長のみ参加可能。日本メンバーは不参加)

TG1:バイオカーボン

WG1:用語定義

WG2:燃料の仕様・種類

WG4:物理・機械的試験法

WG5:化学的試験法

WG6:サンプリング

TC238ミーティング:全体会合(各WGの議長による成果発表、今後の予定など)

TC 238 2024年ウイーン年次総会

- いわゆる、欧米流のビジネスプロトコールで物事が進む
- 和気あいあいの良い関係だが、それは個人的な信頼関係に基づいており、長い付き合いを意味する（お役所的な数年で担当者交代はありえない）
- 参加者は試験機関が主で、他は業界団体、規格協会、コンサルなど（国の省庁関係者は日本とインド以外は参加しておらず、大学の関係者も研究者という意味ではない）
- 会議で強調されていたのは、ここは研究の場ではなく「既に市場で商品化されて流通している燃料」について議論する場であること（つまり大学などで試験段階にあるものは対象外）
- 年次総会は儀礼的な要素が強く、個別の議論は各WGで確定している（そのWGも基本的には概要が決まっている→年次総会のWGで議論する前に、各WG内でのメール等での議論が大切）
- 議論が白熱する部分は既存のビジネス（認証など）に触れる部分であり、関係のない部分はすぐに修正される（例：薪の水分下限値）

TC 238 WG・総会での議論(1)

| | |
|----------------------------|--|
| WG5: Chemical | 9月にウェブ会議の予定 |
| TG1: Biocarbon | Biocarbonの定義ができていない（BiocharやBiocokeなど）、技術ではなく製品について議論、開発資金はISOのTCではなく各国で、議題を決めて年間に数回会議、市場の優先度、次回までに各国のBiocarbon関係の製品と規格の優先度をConveyorに報告、FRのスエズとDEが議論 |
| WG2: Specification & Class | BiocarbonについてWorkshop開催、Biocarbonとそれに類する熱加工されたバイオマスをどのように定義するか、自己発熱についての判断やテストの方法がない、ペレットの自己発熱とはまた違った動きをする（反応が早い）、WG4からのRevisionとして、ペレットの長さの定義が45mmを超えてはいけないという既定の見直しについて、1本でも超えると規格をパスできないので例えば1%までなら許容するとか、フランスからのBiocarbonの議論はWG2で別途ウェブ会議 |

TC 238 WG・総会での議論(2)

| | |
|-----------------|--|
| WG7: Safety | 4年前から活動、自己発熱についてのフランスからコメント、ブロワートラックについてフィンランドからコメント、繊維製サイロについてフランスからコメント、バルクでの商売について燃料側に立つかボイラ側に立つか立場の違い、15kg袋をパレット積みする際の規定は規格ではなく労働関連法制度で対応すべき、その他ドイツパレット協会からの鬼のような数の質問への対応、9月末までにMartin Eから案を提示、BiocarbonについてはTG1とWG2からのフィードバック |
| Plenary Meeting | 事務局からの連絡事項、前回議事録の承認、ISOのアップデート、ロンドン宣言、各WGからの報告、TG1での議論は各WGに戻して議論することに、ISO/TC287は2024年8月にオタワ、ISO/TC300は2024年9月に北京（ハイブリッド）、ISO/TC238は2025年10月に日本（東京？）開催、TC238は1年半あるのでその間にバーチャルで会議 |

TC 238 WG・総会での議論(3)

WG4 物理・機械的試験法

- ・粒度分布のD50のラウンドロビン結果の報告

⇒結果に大きな差が出たので、原因追及の為今後も調査を続けることとなった。

- ・長さ試験の測定方法についての議論

⇒話し合いの中で45mm以上の有無に関しては5kgのサンプルで測定を行う事となった。

長さの測定方法について最長部の測定でよいという各国の意見と、木質ペレットの中心部で測定をおこなうべきというドイツの意見が真っ向から対立した。午前～午後にかけて3時間以上話をしたが双方譲らず次年度も話をつづけるという約束の元終了となった。

- ・その他の項目は、時間が無くなったため簡単な報告のみで終了

WG6 サンプルング

- ・サンプルング場所はストリーム上の落下ポイントにて行う（メカニカルサンプルング）ことが良いが、世界的にそのような設備がある場所はほとんどない。

⇒林業や製紙用ではトラックからサンプルングを行うなどの簡易版があるため、類似の試験方法を導入するか今後要検討事項となった。

- ・バイオカーボンのサンプルング方法をどうするのか？

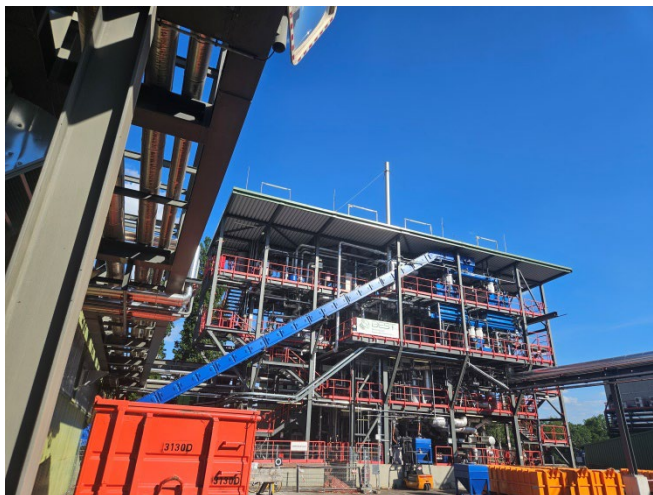
⇒石炭用の規格をそのまま使えるはずという意見と性状が異なるため変更を加えるべきといった反対意見が出た。

ただしTG1（バイオカーボン）から具体的な提案がない事および具体的なニーズがまだないことから時期尚早だと結論付けられた。

見学会：発電所とFT合成プラント



バイオマス発電所の様子



FT合成プラントの様子